

1546

NAKAJIMA AIRCRAFT CO.

米軍の攻撃目標は

日本の軍事施設ではなく

産業施設だった

米国が選んだ 対日攻撃目標

▼編著 田中宏巳 防衛大学校名誉教授

日米開戦時に策定が始まったと思われる

米国陸海軍の対日「攻撃目標リスト」に載っている

個々の攻撃目標に綿密な解説を加え、

そこから見えてくる米国の意図を探り、

当時の日本の産業の姿を描く。

●目次●

第1章 本書の基本資料になった合同攻撃目標リストについて

第2章 「攻撃目標リスト」

1. 北海道
2. 東北地方
3. 石川・富山・長野・新潟
4. 関東地方 (千葉・茨城・栃木・群馬・埼玉)
5. 東京
6. 神奈川
7. 静岡
8. 愛知
9. 岐阜・三重
10. 京都・滋賀・福井
11. 大阪
12. 兵庫
13. 中国地方
14. 四国地方
15. 福岡
16. 大分・宮崎・鹿児島
17. 佐賀・長崎・熊本

第3章 解説「攻撃目標リスト」が語るもの

- 1 「攻撃目標リスト」の意義について考える

①「攻撃目標リスト」の特徴

②「攻撃目標リスト」の作成を可能にした資料の蓄積

③ 攻撃目標の内訳が意味するもの

④ 個別爆撃 から一帯爆撃へ

2 「攻撃目標リスト」による開戦前の日本の産業構造

①鉄鋼産業—銅精錬・伸銅と鉄鋼生産—

②機械産業—20世紀の戦争は内燃機関と工作機械の争い—

③電気化学工業の隆盛とアルミニウムの生産

④航空機産業の展開

⑤日本の生命線は鉄道網

ゆまに書房

◎プリント版 2026年7月刊行予定

◎電子書籍版 2026年8月刊行予定

米国が選んだ対日攻撃目標

プリント版 = 2026年7月刊行予定
電子書籍版 = 2026年8月刊行予定

【編著】田中宏巳 防衛大学校名誉教授 ●定価：本体 18,000 円+税 ISBN978-4-8433-7216-6 C3021 A5判上製 / 450 頁 / カバー装 (電子書籍 = 同時 1 アクセス：本体 19,800 円+税 / 同時 3 アクセス：本体 39,600 円+税) ★電子書籍版は KinoDen / Maruzen eBook Library のサービスでご購入になれます。

第2章 攻撃目標リスト

製造する部門はなかった。やはり何らかの錯誤があるとみられる。

90:25-1708 Nippon Aluminum Works 日本アルミニウム工業

明治 31 年、大阪市淀川区三国本町に創設された時の名称は高木アルミニウム製造所であった。日露戦争直後の 39 年に更なる発展を期して日本アルミニウムに変わった。昭和 3 年に株式会社になったが、社名には変更がなかった。日本アルミニウムになったのは 21 年 5 月であり、戦前の正式な名称は日本アルミニウムであった。英語表記の Aluminum には変更がないが、日本では時代により読み方が異なり、戦前は一を入れる読み方が多かった。

90:25-1713 Tagi Fertilizer Co. 多木製肥所

Tagi ではなく Taki である。明治 18 年、多木久次郎が日本最初の人造肥料である骨粉を製造販売、31 年には過燐酸石灰の工場を建設し、その後、「九重肥料」「しき島肥料」等を製造販売して多大の利益を上げた。大正 7 年、(株)多木製肥所に改組し、昭和 19 年には住友化学と共同で住友多木化学工業(現：住友精化)を設立している。戦争に際しては火薬製造に当たった可能性があるが記録がない。現在は多木化学(株)の社名に変わっている。

90:25-1719 Nippon Airbrake Co. 日本エアブレーキ工業

大正 14 年、神戸製鋼所・発動機製造(現ダイハツ)・東京瓦斯電気工業の三者が出資し、鉄道用エアブレーキ製造を目的に神戸市脇浜町に創業した。昭和 8 年には日本で初めて自動車用ブレーキを製造して販売した。戦争中は日本制動機と改称したが、戦後旧社名に戻っている。〔新修 神戸市史〕産業経済編Ⅱ 第二次産業)

90:25-1724 Kawasaki Aircraft Industry Co. 川崎航空機

昭和 15 年、明治通分室と呼ばれた部門を明石郡林崎村に設置した新工場に移し、防毒具工場と改称して航空機用呼吸器と対毒ガス防護器の生産を続けた。しかし 17 年 4 月、明石市茶園町に再移転し、明石防毒兵器工場と称して操業を行った。20 年 1 月に空襲を受けて多数の犠牲者を出したと伝えられる。〔川崎重工工業株式会社五十年史〕

12 兵庫

90:25-1739 Furukawa Electrical Co. 古河電気工業(尼崎工場)

昭和 11 年、日本伸銅と尼崎伸銅が合併し、尼崎市道意町に 16.5 万平方メートルの敷地を求め、これに工場を建設し、13 年に完成、古河電工大阪伸銅所とした。昭和 13~4 年の頃、尼崎市内の最大工場は住友金属工業で、二番目が古河電気工業で、14 年の従業員は 1827 人であったといわれるので、市内では大きな工場に属した。目標リストの解説では、銅・アルミニウム・亜鉛・合金のプレート、棒、管等を製造とあるが、実際はこの従業員数で多種生産は難しかったのではないかと。(『尼崎市史』第 3 巻)

90:25-1740 Furukawa Electrical Co. 古河電工

90:25-2046

No.1739 との違いがよくわからない。大正 9 年、古河鉱業と大阪電気分銅によって尼崎伸銅が設立された。昭和 9 年 4 月、尼崎伸銅と大阪電気分銅が古河電工と合併し、両工場は名称を若干変えただけでそのまま存続した。軍需が拡大する情勢の中で、両工場を一つにする計画が浮上り、昭和 11 年に大庄村に新たな土地を見つけ、4000 トン水圧プレス機等を備えた新鋭工場を建設し、13 年 11 月、両工場が統合した大阪伸銅所が発足した。(Wed 版尼崎地域史事典 apedia)]

90:25-1743 Dai Nichi Electric Wire Co. 大日電線

経営に行き詰まっていた古河合名は、大正 9 年、系列の横浜電線製造大阪工場及び古河工業尼崎工場と日本電線製造を合併させた。尼崎大洲の旧横浜電線製造大阪工場を本社工場とし、旧日本電線製造の境川工場をこれに集約させた。新たに発足した日本電線製造は、当時東京にあった日本電線と混同されるため、昭和 6 年に大日電線に改称した。戦後、大日電線は日本電線と合併して 39 年に大日本電線となり、さらに 61 年に三菱電線工業となった。

90:25-1745 Kawanishi Machine Shop 川西機械製作所

日本毛織の創業者川西清兵衛が、中島知久平と袂を分かった大正 9 年に、神戸市兵庫区の川西倉庫に川西機械製作所を設立し、飛行機や繊維機械の生産を開始し、11 年には衡器の生産にも進出した。昭和 9 年には真空管開発に乗り出し、モリブデン・タングステン合金に着手、11 年に送信管・受信管を製造し、当時真空管の性能は日本一と評価された。15 年に大久保に通機工場を建設(現富士通明石工場)、陸海軍の要求に応えた。戦後、神戸工

本文見本
66%に縮小

- 242 -

- 243 -

本書の特色

- 国立国会図書館の収蔵資料、"Joint Target Group, Air Target Intelligence and Analysis, Japanese War" ("Joint" は陸軍案と海軍案の結合の意) は日米開戦の時期に米軍が策定を始めた日本本土の「攻撃目標リスト」である。「攻撃目標リスト」にある 1,025 ヶ所について、諸資料にあたって分析し、考察を加えた。
- 「攻撃目標リスト」にある 1,025 の各目標施設・地点について多くの資料に当り詳細な解説を施す。
- 「攻撃目標リスト」から見えてくる米軍の日本本土攻撃についての戦略を考察し、また、太平洋戦争における「総力戦」や「情報戦」について日米の考え方の違いを浮き彫りにする。
- 空襲の結果報告などに比べ注目されていなかった「攻撃目標リスト」に光を当てた研究。
- 各目標施設・地点の詳細な解説は、戦時期の日本の産業史、地域史の研究にも寄与する。

ゆまに書房 〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-7-6 TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493 <https://www.yumani.co.jp>

| | |
|---|-----|
| ゆまに書房 Tel.03(5296)0491 / Fax.03(5296)0493 年 月 日 | |
| 米国が選んだ対日攻撃目標 | |
| 定価：本体 18,000 円+税 ISBN978-4-8433-7216-6 C3021 | |
| お名前 | 取扱店 |
| ご住所 | |
| TEL () | |